

2014年度～2017年度の保育科の音楽教育改革について

On the Music Education Reform of the Childcare Department from 2014 to 2017

田中敬子*

(平成 29 年 7 月 12 日受理)

要約

筆者は 2013 年 4 月に兵庫大学短期大学部の保育科に着任し、2014 年度から学科の音楽教育全般において改革を行った。改革は、カリキュラムに関わること、授業内容に関わること、教授方法、成績評価に関わること、大学行事に関わることなど多岐に亘る。今後継続して改革していくための参考資料として、これまでの改革を整理し纏めた。

キーワード：音楽教育、ピアノ、グレード

Keyword: Music Education, Piano, Grade

I. はじめに

保育科は 2 年制の第一部と、3 年制の第三部という組織を持っている。入学定員は、第一部 100 人、第三部 80 人である。1 年生、2 年生は第一部と第三部を合わせると、1 学年それぞれ約 200 人の学生がいるが、ピアノのレッスン、音楽の様々な授業など、大人数であっても、大学としては、質を落とすことなく、きめの細かい授業を学生に保証しなくてはならない。

2013 年度は、従来の内容で行われていた音楽の授業を指導しながら観察し、改革すべき問題点を見出し、2014 年度から改革を実行した。

以下、カテゴリーごとに分類し、改革内容を説明する。

はピアノの個人レッスンは行われない科目である。音楽教育 C と音楽教育 D のピアノの個人レッスンは、器楽 A、器楽 B の半分の回数しかないが、赤字で記す。

表 1 と表 2 を見比べると、第三部では 2 年生の 1 年間に、ピアノの個人レッスンがある授業がない状態であることが分かる。2013 年度の I 期に第三部の音楽教育 C を担当したが、楽譜が読めず、ピアノが弾けない学生が多いことに気付いた。この時の履修生は、2013 年度から始まった「特別ピアノ講座」（略して特ピ）も受講していないため、2 年生の 1 年間、全くピアノの個人レッスンがなかった学生である。

II. カリキュラム

まず、保育科には音楽関係の授業として、音楽教育 A、音楽教育 B、音楽教育 C、音楽教育 D、とピアノの授業として、器楽 A、器楽 B の合計 6 種類の科目がある。音楽教育 C と音楽教育 D は 2 クラス授業で、隔週で集団授業とピアノの個人レッスンが行われていた。

ピアノの個人レッスンが行われている科目を、以下の表中に赤字*1)、で記す。青字*2)の科目

表 1) 2013 年度の第一部のカリキュラム

1年I期	1年II期	2年I期	2年II期
器楽A	器楽B		
音楽教育A	音楽教育B	音楽教育C	音楽教育D

表 2) 2013 年度の第三部のカリキュラム

1年I期	1年II期	2年I期	2年II期	3年I期	3年II期
器楽A	器楽B	(特ピ)	(特ピ)		
		音楽教育A	音楽教育B	音楽教育C	音楽教育D

2013年度に、第三部2年生に対して「特別ピアノ講座」という単位に関係しない補習的なピアノ個人レッスンが希望学生に対して開講された。多くの学生が受講を申し込み、当初は意欲が感じられたが、回を追うごとに出席率が悪くなり、1人の教員が学生6人担当しても、出席する学生が1人、2人や0人の場合もしばしばあった。ここに大きな問題提起があると感じた。なぜ学生はピアノレッスンを受けることを止めたのであろうか。なぜ意欲がなくなったのであろうか。この問題を解決することが保育科の音楽教育改革の原点であった。

カリキュラム委員会、学科会議、教授会の承認を経て、2014年度から第三部の音楽の授業の学年配当、開講時期を表3のように変更した。

表3) 2014年度からの第三部のカリキュラム

1年1期	1年Ⅱ期	2年1期	2年Ⅱ期	3年1期	3年Ⅱ期
(特ビ)	器楽A	器楽B	(特ビ)		
音楽教育A			音楽教育B	音楽教育C	音楽教育D

この配当により、1年間ピアノの個人レッスンがないという状態を回避した。

Ⅲ. 音楽教育A～Dの整備

2013年度以前の音楽教育A～Dの授業内容は、シラバスから明瞭に分かるものではなかったため、シラバスと授業内容の整備を行った。

2013年度の授業から、音楽理論を理解できている学生が少ないことが明らかになったため、まず1年生Ⅰ期に音楽教育Aで音楽理論を教えることにした。第一部生は音楽理論を学びながら、同時に器楽Aでピアノのレッスンを受けることになった。第三部生はⅠ期に音楽理論を学んでから、Ⅱ期に器楽Aでピアノのレッスンが始まることになった。

音楽教育A～Dがひとつの大きな流れを持つように、Aを学んだ後B、Bを学んだ後Cと学びが進

められるように授業内容を考えた。音楽教育A(音楽理論)、音楽教育B(合奏)、音楽教育C(即興演奏)、音楽教育D(合唱などのアンサンブル)と概要を決めた。この概要に付随して、開講時期に学生が必要な様々な内容も盛り込んだ。例えば、音楽教育Aでは、ピアノ初心者のためにピアノの奏法も理論と同時に教えることにした。音楽教育Bでは、実習が始まることも考えて、子どもへの合奏指導や楽器の取り扱い方なども教えることにした。音楽教育Cでは、研究保育をする実習がある時期を鑑みて、律動や効果音など、実習で即戦力となる即興演奏を教えることにした。音楽教育Dは実習もほぼ終わり、卒業学年最後の音楽の授業であることから、学生同士が協力し合って楽しめる内容にした。

Ⅳ. 授業形態、授業方法の改革

1. 器楽Aと器楽Bの「初心者クラス」の廃止

2013年度の器楽の授業を担当した時に、すぐに改善しなくてはならないと感じた授業形態があった。器楽Aと器楽Bでは、ピアノ初心者は集団でレッスンが行われていた。中級、上級者はピアノレッスン室での完全な個人レッスンであるが、初心者は「初心者クラス」と呼ばれる90分授業で10数名を一人の教員が指導する形態であった。10数名はML教室と呼ばれる電子ピアノが並んだ教室で、ヘッドフォンをつけてピアノを練習しており、1人当たり5分程度、教室の前にあるグランドピアノで教員の指導を受けるという形態であった。初心者ほど、きめ細かい個人レッスンが必要であり、また指導にも時間がかかるものである。この形態が取り入れられた背景には、90分間電子ピアノで練習できること、があるようだが、同じ教室内においてグランドピアノでレッスンを受けている学生のピアノの音が絶えず鳴っているため、たとえヘッドフォンをつけていても練習に集中できないと思われる。2014年度からは、初心者、上級者の区別なく、クラスの学生数を均等に教員数で割り振りして、完全な個人レッスン形態に切り

替えた。

2. 器楽 A と器楽 B に声楽を導入

「初心者クラス」は、学生が 90 分間、集中はできていないにしても、ピアノの練習をしているのを教員が見ることができる利点はあった。2014 年度から履修学生全員が完全な個人レッスンを受ける形態になったため、レッスンの質は向上したものの、学生は指導教員のレッスン室でレッスンを受けた後、残りの授業時間を個人練習室で練習することが求められるが、指導教員はレッスンを終えて部屋を出た学生が、残りの時間を真面目に練習室で練習しているかどうかまで監視することができない。90 分の授業開始時に出席をとり、終了時に全員が練習室にいるかどうかのチェックは行っていた。しかし、学生の中には、レッスンを受けた後、練習室で練習をしないで携帯メールを見たり、友達と談話したり、または他の場所に行き、授業終了時の早退のチェックの時だけ戻ってくるような学生もいた。90 分のピアノの授業であるはずが、15～20 分の教員のレッスンを受けるだけで、他の時間は遊んでいる学生がいる状況を、どうやったら改善できるか 2014 年度は 1 年間考えた。

保育科の音楽の授業の中で欠けている分野が、声楽であった。ピアノ指導教員の中に声楽科出身の教員がおられたので、2015 年度から器楽 A と器楽 B の授業の中に声楽も取り入れた。学生が 90 分の授業時間を有益に使うように、45 分間はピアノ、45 分間は声楽、というように 1 コマの授業の中で、前半ピアノ＋後半声楽、というグループと、前半声楽＋後半ピアノ、というグループが 45 分入れ替わるようにした。1 教員が担当する学生数は概ね、前半 2～3 人、後半も 2～3 人で、個人練習室で練習している学生数がそれまでの半分と少ないことから、ピアノのレッスンも含めて、45 分間、真面目に練習しているかどうかの把握もしやすくなった。声楽では、弾き歌いの歌の部分を重点的に指導することにした。歌のレパートリーを増やし、大きな声で歌えるような発声法など、そ

れまでのピアノの個人レッスンでは特化してできなかった領域の指導が可能になった。声楽は集団授業であるが、10 数人程度の集団であるため、行き届いた指導が可能な人数である。

この授業形態を導入してから、学生は途中で遊ぶことなく、ピアノの個人レッスンを受ける＋レッスンを受けた残りの時間は練習室で練習する＋声楽の集団授業を受ける、と 90 分を完全に有益に使うようになった。

3. 音楽教育 A での ML 機能の活用

学内には ML 機能を備えた音楽教室が 2 つあるが、2013 年度の授業では ML 機能を使つての授業は行われていないようであった。2014 年度から音楽教育 A で音楽理論を教えることになったので、ML 機能を駆使する授業形態にした。2 つある ML 教室のうちの 1 教室には、それぞれの電子ピアノの前にモニター画面があり、2 台の電子ピアノで 1 つの画面を見る設計になっている。細かい資料も見やすく、教員の電子ピアノの鍵盤を投影することもできるため、ピアノ奏法の説明にも有益である。ヘッドフォンをつけて 2 台、4 台連弾もできる機能があるので、学生一人に対してピアノ 1 台が当たるように座席を指定し、学生同士で教え合い、聴き合い、考えながら問題を解決する力も付けるように工夫した。

また、電子ピアノに備わっているリズム機能や自動伴奏機能なども使い、理論と合わせて楽しめる授業を工夫した。保育園、幼稚園では電子ピアノで保育をしている園も多いので、電子ピアノの機能を活用できるようにし、マイナスのイメージに捉えがちな電子ピアノをプラスのイメージに変え、ML 機能を最大限に活用するようにした。

V. 特別ピアノ講座の充実とピアノレベルチェックの実施

2014 年度に第三部のカリキュラムを変更したことに伴い、特別ピアノ講座の開講時期も変更となった。表 3) の通り、ピアノの個人レッスンが

ない時期は、1年生のⅠ期と2年生のⅡ期となった。この時期に非常勤の先生方のご協力を得て特別ピアノ講座を開講することにした。

ピアノのレッスン内容は器楽Aや器楽Bと同じである。単位や成績とは関係のない初心者のための補習講座であるので、学生はピアノのレッスンを受けたら帰っても良い。2013年度の特別ピアノ講座は、既に器楽Aと器楽Bの履修が終わっているので、大学でのピアノの授業を終えた感覚が学生にはあり、ごく一部の熱心な学生しか講座を継続することができなかった。2014年度からの特別ピアノ講座は、Ⅰ期開講は器楽Aが始まる前で、初心者はⅡ期に開講の器楽Aまでに少しでも上達しようという明らかな目標を持つことができた。この目標は2014年度からスタートしたピアノグレード制と深く関係している。ピアノグレード制については後の項で述べる。

2013年度までの特別ピアノ講座は、既に器楽Aと器楽Bを履修し終えた後の開講のため、どの学生が特別ピアノ講座を必要とするか判断できた。しかし2014年度からの特別ピアノ講座は、入学したばかりの学生対象のため、学生のピアノの力量が分からない。この問題を解決するため、入学後のオリエンテーション期間中に「ピアノレベルチェック」という新入生のピアノの力量を判断する機会を設けた。2013年度も2014年度のⅡ期の特別ピアノ講座も、受講は学生の任意である。しかし2014年度からのⅠ期開講の特別ピアノ講座は、ピアノレベルチェックから受講が必要な学生を選別し、半強制的に受講させる方法をとっている。単位も出ない講座を強制的に受けさせるという、普通ならば学生から苦情が来そうな方法であるが、ピアノグレード制を特別ピアノ講座受講生にも適用することにより、受講対象者に選ばれて得をしたと感ぜられることに成功している。

VI. ピアノグレード制の導入

2014年度から実施した改革の柱は、器楽Aと器楽Bにピアノグレード制を導入したことである。

2013年度の1年間、器楽Aや器楽Bの授業は行われているものの、レッスンの前になっても、多くの学生は練習室で真摯に練習していなかった。ピアノの試験でも、何回も止まりながら演奏しても悲壮感がなかった。学生の中には、下手に弾いても単位は出るだろう、という考えの甘さがあった。

グレード制の一番の教育的な狙いは、学生自身が現在の自らの能力のレベルを知ること、到達目標がどこにあり、そこに到達するまでに、どのような道りがあり、努力をしなくてはならないかを知ることである。付随的な教育的な狙いとしては、学生全員がグレード制を共通理解し、同じ目標に向かって、教員对学生だけでなく、学生同士で教えあい、励ましあって、目標に到達する道りを歩むことである。成績評価もグレードに基づいて明瞭にされている。またグレード試験を受験できる機会を増やし、うまく弾けなかったら成績が低い、で終わるのではなく、課題をクリアできるまで何回も受験できる体制を作った。15回目の授業日は、全員がグレード試験を授業時間内に受けるが、それまでに授業時間外に6回のグレード試験日を設けた。受験は学生の任意であり、授業時間内の試験以外に1回は必ず受験しなくてはならないという内規を作った。前項で述べた特別ピアノ講座の受講生も、この6回のグレード試験を任意で受けることができる。ここに特別ピアノ講座を受講しているお得感があるのである。第三部の学生は、本来ならば1年生のⅡ期から器楽Aが始まり、Ⅱ期からグレード試験を受けることになる。しかし初心者である特別ピアノ講座の受講生は半期前倒しでグレード試験を受けることができ、器楽Aの授業開始までにグレードを取得していくことができるのである。

試験に対する緊張感を持たせるためにも、グレード試験の申込みは、教務課に申込みBOXを設置し、個人レッスン担当教員の承認印が押された「ピアノグレード試験受験票」を提出する手続きを踏むこととした。試験日、申込み期間を学生に周知させ、学生自らが到達目標に向かって受験の計画

を立てられるようにした。

図4のように、受験票は受験申し込みと、教員が合否の結果とフィードバックを所見の欄に書き込めるようにもした。ピアノの合否は、試験終了後すぐに合格者の学籍番号を掲示することで、受験生は結果をすぐを知ることができるようにした。すぐに知らせるのは、次の個人レッスンの時の課題を準備するためである。試験が否であった場合は、また次回のグレード試験で再チャレンジする。この受験票は試験終了後すぐに学生には返却せず、担当教員のメールボックスに入れて返却する。教員は学生の結果と記入された所見を見て、今後の学生の指導に役立ててもらふ。試験終了後の次の授業のレッスン時に、申込票は担当教員から学生に返却される。

平成29年度1期ピアノグレード試験日 及び 受験申し込み期間

【1期】

第一部1年生「器楽A」履修者・再履修者

	試験日	申込み期間 (受付時間原則 8:00頃~18:00)	受験可能人数
①	4/28 (金) 16:30~	4/21 (金) ~ 4/27 (木)	60人
②	5/19 (金) 16:30~	5/12 (金) ~ 5/18 (木)	60人
③	6/2 (金) 16:30~	5/26 (金) ~ 6/1 (木)	60人
④	6/16 (金) 16:30~	6/9 (金) ~ 6/15 (木)	60人
⑤	6/30 (金) 16:30~	6/23 (金) ~ 6/29 (木)	60人
⑥	7/14 (金) 16:30~	7/7 (金) ~ 7/13 (木)	60人
⑦	7/27 (木) 授業時間内	授業内で申込み	

- ①~⑥は任意で最低1回以上受験のこと。
- ⑦の試験は授業中に実施。全員受験。

第三部2年生「器楽B」履修者・再履修者、第三部1年生「ピアノ特別レッスン」受講者

	試験日	申込み期間 (受付時間原則 8:00頃~18:00)	受験可能人数
①	4/25 (火) 13:00~	4/14 (金) ~ 4/21 (金)	72人
②	5/9 (火) 13:00~	4/28 (金) ~ 5/2 (火)	72人
③	6/6 (火) 13:00~	5/26 (金) ~ 6/2 (金)	72人
④	6/20 (火) 13:00~	6/9 (金) ~ 6/16 (金)	72人
⑤	7/4 (火) 13:00~	6/23 (金) ~ 6/30 (金)	72人
⑥	7/18 (火) 13:00~	7/7 (金) ~ 7/14 (金)	72人
⑦	8/4 (金) 授業時間内	授業内で申込み	

- 「器楽B」の履修者は、①~⑥は任意で最低1回以上受験のこと。
- ⑦の試験は授業中に実施。全員受験。
- 「ピアノ特別レッスン」受講者は、①~⑥は任意で最低1回以上受験のこと。

図1) グレード試験実施日一覧

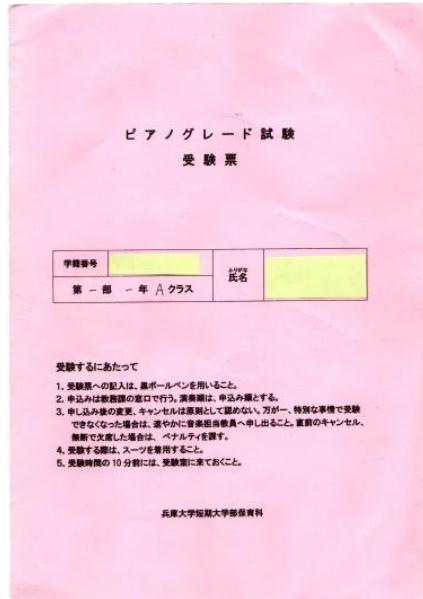


図2) ピアノグレード試験受験票 (表紙)

受験日	平成 年 月 日 ()	受験グレード	学年	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特ビ	指導 教員印
ピアノ 曲名	作曲者名				
弾き 歌い 名					
所見					合・否

受験日	平成 年 月 日 ()	受験グレード	学年	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特ビ	指導 教員印
ピアノ 曲名	作曲者名				
弾き 歌い 名					
所見					合・否

受験日	平成 年 月 日 ()	受験グレード	学年	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特ビ	指導 教員印
ピアノ 曲名	作曲者名				
弾き 歌い 名					
所見					合・否

受験日	平成 年 月 日 ()	受験グレード	学年	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特ビ	指導 教員印
ピアノ 曲名	作曲者名				
弾き 歌い 名					
所見					合・否

図3) ピアノグレード試験受験票 (中面)

この申込票は学生の成長の記録でもある。

受験日	平成26年5月31日 (全)	受験 グレード	1	学年	1	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特選	指導 教員印	
ピアノ	曲名 45番 50番	作曲者名	バイエル					
弾き 歌い	曲名 ちんちん星							
所見	2曲目はしっかり練習して下さい。						合・否	<input checked="" type="checkbox"/>

受験日	平成26年7月18日 (全)	受験 グレード	2	学年	1	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特選	指導 教員印	
ピアノ	曲名 60番 61番 66番	作曲者名	バイエル					
弾き 歌い	曲名 ちんちん星							
所見	つづからがんばって下さい。本番でしっかり練習するように練習をしましょう。						合・否	<input checked="" type="checkbox"/>

受験日	平成26年9月5日 (全)	受験 グレード	2	学年	1	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特選	指導 教員印	
ピアノ	曲名 60番 61番 66番	作曲者名	バイエル					
弾き 歌い	曲名							
所見	練習にしっかり時間をかけて下さい。						合・否	<input checked="" type="checkbox"/>

受験日	平成26年10月29日 (全)	受験 グレード	2	学年	1	器楽A・器楽B 音楽C・音楽D 特選	指導 教員印	
ピアノ	曲名 60番 61番 66番	作曲者名	バイエル					
弾き 歌い	曲名							
所見	あきらめずよく練習して下さい。						合・否	<input checked="" type="checkbox"/>

図4) ピアノグレード試験受験票 (記入例)

H28年度Ⅱ期 ピアノグレード試験結果

クラス	9月27日	10月18日	11月1日	12月6日	12月20日	1月10日	1月27日	再試 (2月7日)	音楽人数
B1			② 〇 1		③ 〇 1		④ 〇 0		④ 2
B1		① 〇 /					② 〇 0		② 0
B1				③ × 1	③ × /		③ 〇 /		③ 1
B1				② × 1	② 〇 /		③ 〇 1		③ 2
B1	② ③ 〇 /	④ × 1	④ × /	④ 〇 /			⑤ 〇 1		⑤ 2
B1	② ②	③ × 1	③ × /	④ 〇 1			⑤ 〇 1		⑤ 3
B1	② ②	③ 〇 1	③ 〇 /	④ 〇 1	7A 〇 0		7A 〇 0		7A 3
B1	①	② 〇 0	⑤ 〇 1		③ × 0		③ 〇 1		③ 1
B1	①	② 〇 /					③ 〇 1		③ 1
B1	①	② × 0	② 〇 1		③ 〇 0		④ × 0		③ 1
B1		⑤ 〇 1					6B 〇 2		6B 3
B1		④ × 0	④ 〇 0		⑤ 〇 1		6A 〇 2		6A 3
B1				⑤ × 0			⑤ 〇 0		⑤ 0
B2					② × 0		② 〇 0		② 0
B2	③	④ 〇 1			⑤ 〇 1		6A 〇 1		6A 3
B2			④ × 1		④ 〇 /		⑤ 〇 0		⑤ 1
B2	②		③ 〇 0		④ 〇 1		⑤ × 1		④ 2
B2		④ 〇 1	⑤ 〇 1		6B 〇 2		7A 〇 2		7A 6
B2		③ 〇 1		④ 〇 1	⑤ 〇 0		6B 〇 0		6B 2
B2	②	③ 〇 1	④ 〇 0		⑤ 〇 1		⑤ × 1		⑥ 2
B2	③	④ × 1	④ 〇 /		⑤ 〇 1		⑥ 〇 1		⑥ 1
B2	①	② × /	② 〇 /	③ × 0	③ × 0		③ × /		② 0
B2		⑤ 〇 1	6B 〇 2		② × 1	② 〇 /	7B 〇 2		7B 5
B2				② × 1	② 〇 /		③ × 0		② 1
B2	③		④ × 1	④ 〇 /			⑤ × 0		④ 1
B2		④ 〇 0		⑤ 〇 1			6B 〇 1		6B 2
B2			① × 0	① 〇 0			② × 0	② 〇 /	② 0

図5) ピアノグレード試験結果 (教員転記用)

毎回の試験結果は図5のように転記して、音楽教員全員が見られるようにファイリングして音楽研究室に保管している。この一覧を見ると、特別ピアノ講座、器楽A、器楽B、と学生がどのように成長したかが一目でわかる。また、どのグレードで躓いているのかも合わせてわかる。

ピアノグレード一覧表

グレード	ピアノ	弾き歌い
1	「バイエル」 No.45～No.59 (No.53とNo.54は除く)の中から任意の3曲	自由曲1曲
2	「バイエル」 No.60・No.61・No.62・No.65・No.66・No.67の中から任意の3曲	自由曲1曲
3	「バイエル」 No.72・No.73・No.75・No.76・No.77・No.78・No.79・No.83・No.84・No.85の中から任意の3曲	自由曲1曲
4	「バイエル」 No.88・No.89・No.90・No.91・No.93・No.94・No.95・No.96・No.97・No.98の中から任意の3曲	自由曲1曲
5	「バイエル」 No.80・No.81・No.82・No.99・No.100・No.102・No.104・No.105	自由曲1曲
6A	「ブルグミュラー」25の練習曲 No.2・No.4・No.5・No.6・No.7・No.8・No.10・No.11・No.16・No.17・No.18の中から任意の1曲	自由曲2曲
6B	「ブルグミュラー」25の練習曲 No.9・No.12・No.14・No.15・No.20・No.21・No.22・No.23・No.24・No.25の中から任意の1曲	自由曲2曲
7A	「ソナチネアルバム1」 4・1 (No.4の1楽章)・4・2・5・1・6・1・7・3・8・1・8・3・9・3・17・1	自由曲2曲
7B	「ソナチネアルバム1」 5・3 (No.5の3楽章)・6・2・9・1・10・1・11・3・12・1・14・3・15・1・15・2・17・2の中から任意の1曲	自由曲2曲
8	自由曲	自由曲3曲 (当日2曲指定)
9	自由曲	自由曲4曲 (当日2曲指定)
10	自由曲	自由曲5曲 (当日2曲指定)

図6) ピアノグレード一覧表

器楽Aの合格必須条件はグレード2、器楽Bの合格必須条件はグレード5を合格することである。この条件を学生に周知させることにより、学生は明確な目標を持つことができ、自主的に練習するようになった。

Ⅶ. 新ピアノグレード制の導入

前項で述べたグレード制導入により、学生は自主的に高みを目指す努力をするようになったが、グレード制を実施して3年経つと、もっと高みを目指す学生が増えてきた。図6のグレード制では物足りない、というような学生は実施1年目にはなかったことである。学生同士で刺激しあい、互いに高みを目指してきた結果と思われる。2017年度から図6の他に新ピアノグレード制を導入し

た。

ピアノグレード (A (アドバンス) コース) 一覧表

グレード	ピアノ	弾き歌い
①	「バイエル」No.60～No.69 *難易度Aクラス必須 試験当日3曲指定	自由曲2曲 (当日1曲指定)
②	「バイエル」ト調長音階～「バイエル」No.79 試験当日3曲指定	自由曲2曲 (当日1曲指定)
③	「バイエル」No.80～No.89 試験当日3曲指定	自由曲2曲 (当日1曲指定)
④	「バイエル」No.90～No.98 試験当日3曲指定	自由曲2曲 (当日1曲指定)
⑤	「バイエル」No.99～No.105 *難易度Aクラス必須 試験当日3曲指定	自由曲2曲 (当日1曲指定)
⑥A (選ばれて6曲受験可)	「ソナチネアルバム1」4-1 (No.4の1楽章)・ 4-2・5-1・6-1・8-1・8-3・9-3・17-1 の中から任意の1曲	自由曲4曲 (当日2曲指定)
⑥B	「ソナチネアルバム1」5-3 (No.5の3楽章)・ 6-2・9-1・10-1・11-3・12-1・14-3・15-1・15-2・ 17-2 の中から任意の1曲	自由曲4曲 (当日2曲指定)
⑦	自由曲	自由曲5曲 (当日2曲指定)
⑧	自由曲	自由曲6曲 (当日2曲指定)
⑨	自由曲	自由曲7曲 (当日2曲指定)
⑩	自由曲	自由曲8曲 (当日2曲指定)

図7) ピアノグレード(Aコース)一覧表

【ピアノグレード 内規】

2017年4月改定版

グレードの2コース(Aコース・Bコース)は、自分の能力と将来の必要性を考えて、自ら選ぶことができる。

Aコース：特進(アドバンス)コース

Bコース：基礎(ベーシック)コース

Aコースから途中でBコースに変更、またはBコースから途中でAコースに変更は可能である。

Bコースは①～⑤のどこから始めても良い。

しかし、Aコースは必ず①から始めなくてはならない。

(例：コースBで③まで合格したがコースAに変更したい。→①から始めなくてはならない。)

<コースの特徴>

【主な違い】

Aコース バイエル No.60～No.105 まで全てを習得しながら受験します。

Bコース バイエルを任意で選びながら受験します。

【どのような人に合っているか】

Aコース ・じっくりと確実に力をつけたい人
・ピアノの試験がある園や、公立の園を受けたい人
・⑧を合格したい人

Bコース ・バイエル No.45～No.59 を勉強する必要がある人
・公立の園の受験を考えていない人
・ブルグミュラーも習得したい人

図8) ピアノグレード内規(一部)

図6のグレードは2017年度からは「ピアノグレードB ベーシックコース」とした。図8は内規の一部である。この内規も学生に配布し、口頭での説明も行うが、内規を読んで、A(アドバンス)コースと、B(ベーシック)コースの違いを明確に理解できるようにした。Aコースはバイエル全曲を習得するコースである。公立の就職試験に必要な内容である。従来の図6のベーシックコースでは、公立試験に十分備えることができていなかった。音楽教育検討委員会でAコースの内容を検討していた時、「このようなハードな内容では、ほとんどの学生はAコースを敬遠するだろう」と予想していた。しかし、Aコースで受験する学生を見て、刺激を受け、全体の学生のレベルが上がっていくことを期待して、このハードな内容を実施することにした。実際、2017年度が始まり、既に数回のグレード試験を実施したが、予想以上にAコースで受験する学生が多く、また演奏の完成度も驚くほど高く、これからの学生の成長が期待できる。

新グレードでは成績評価もAコースとBコースで異なるものになっている。このことも学生に周知させている。2014年度から2016年度まで行ってきたグレード制と、2017年度から実施しているグレード制とで、どのような教育的効果の違いがあるのかなどは、またの機会に報告することとする。

VIII. 教員推薦による学生ピアノ発表会の開催

グレード制を実施してから学生の学習能力は飛躍的に伸びた。努力を惜しまない学生が増えたことにより、その成果を発表できる場が必要と考えた。2015年度から年に2回、学生のピアノ発表会を開催することにした。多くの方に聴いてもらえるように、8月のオープンキャンパスの時と、2月のフォローアッププログラムの時に開催することにした。出演学生の選抜はピアノレッスン担当教員の推薦によることとした。発表会の内容はピアノだけでなく、器楽の授業で行っている弾き歌いも取り入れている。



図9) ピアノ発表会 (プログラム表紙)

プログラム		
1.	(第三部 2年生)	100番 (バイエル) 狩り (ブルグミュラー)
2.	(第三部 2年生)	バラード (ブルグミュラー)
3.	(第一部 1年生)	バウムクーヘン (湯山 昭)
4.	(第三部 3年生)	ポップコーン (湯山 昭) にじのむこうに (坂田 修)
5.	(第三部 1年生)	あたまかたひざボン (イギリス民謡) グーチョキパーでなにつくろう (フランス民謡)
6.	(第一部 2年生)	ソナチネ No.9 1楽章 (クレメンティ)
7.	(第三部 2年生)	ソナタ Op.49 No.2 第1楽章 (ベートーヴェン)
8.	(第三部 3年生)	ノクターン Op.9-2 (ショパン)
9.	(第一部 1年生)	ワルツ 第14番 水短調 (ショパン)
10.	(第一部 2年生)	子犬のワルツ (ショパン)
11.	(第三部 2年生)	悲愴ソナタ 第3楽章 (ベートーヴェン)

図10) ピアノ発表会 (プログラム)

出演者には、大学に入学してからピアノを始めた初心者もいる。グレード制を実施したことで、学生の成長が良く把握でき、初心者であっても成長が著しい学生にはピアノ発表会の機会を与えている。上級者がピアノ発表会に出演できることは普通であるが、このように初心者であっても努力が認められ、ピアノ発表会に出演できることは、その学生を最大限に評価することでもあり、また他の初心者の励みにもなる。

聴衆は8月も2月も主に高校生である。8月はオープンキャンパス時であるので、ピアノ発表会を聴くことにより、保育科の音楽教育を知ることにつながる。

Ⅹ. 学生コンサートの充実

保育科では毎年、年度末の頃に全学生が参加する「学生コンサート」を開催している。2013年度以前の学生コンサートのビデオを見たが、教員が司会をし、演奏曲は学生の任意に任せていたのか、同じ曲を演奏するクラスが沢山あった。歌は斉唱であり、合唱ではなかった。座席で聴いている学生は無駄話をしており、静寂な環境ではなかった。

2013年度の学生コンサートは年度末の1月25日に、午前中は第三部と専攻科、午後から第一部のコンサートが開催された。筆者以外のもう一人の音楽教員も、様々な改善の必要性を十分に感じていた。その教員の指導により、この年から「学生コンサート委員」を決めて、コンサートの運営を学生にさせるように改善した。また、以前にはなかった2部合唱や器楽合奏や表彰も取り入れた。しかし、コンサートを聴くマナーは良くはならなかった。開催時期が卒業に近いこともあり、成果発表であるはずの学生コンサートが、教員へのお別れコンサートとなる傾向が見られた。教員に花束を渡したり、ステージ上で涙を流したり、コンサートの意義をはき違えている学生も多かった。

2014年度は、お別れコンサートにならないように開催時期を12月に変更した。また、それまで午前に第三部、午後に第一部と分けて開催していた

のを、午前中に第三部も第一部も合同で開催することにした。今までの倍の人数が会場に入ることから、騒がしくなるのではないかと心配されたが、この年からピアノグレード制が実施されており、演奏を完成させるという過程を知った学生は、人の演奏にも熱心に耳を傾けるようになっており、予想以上に静かな環境が保たれていた。また、保育科の全学生が一堂に会することは、この学生コンサートしか機会がないため、その意味においても開催の意義があると思われる。

X. レッスン記録表の活用

ピアノの個人レッスンにおいて、学生のカルテとなる「レッスン記録表」を活用することにした。同じ表を学生にも配布した。

平成29年度 器楽B 記録表

家での練習 第2部 年 クラス 学籍番号 氏名

回数	実施日	出欠	内容
1	4/14(金)	○	G412 合格 95 99.100.104 この決まりね
2	4/21(金)	○	G5: 99.100.104 (6A アルクミスター) 4/25 グレード5合格
3	4/28(金)	○	G5/合格 (無印) ありの 2/25 (指弾) 大さな葉
4	5/12(金)	○	無印 6A ありの 2/25 大さな葉
5	5/28(金)	○	無印 (1/20) あり 大さな葉 ありの 2/25
6	6/2(金)	○	無印 あり (海軍)
7	6/9(金)	○	無印 (3)
8	6/18(金)	○	6/20に6A受験
9	6/23(金)		
10	6/30(金)		
11	7/7(金)		
12	7/8(土)		
13	7/14(金)		
14	7/21(金)		
15	8/4(金)		ピアノグレード

図 11) レッスン記録表

XI. まとめと今後の課題

カリキュラム編成から始まり、2014年度から2017年度の現在まで様々な改革を行ってきた。最も大きな改革はピアノグレード制の導入である。学生に目標を持たせることが一番の導入理由であったが、ピアノグレード制の成果は予想以上に色々なところに表れている。自分が努力し、練習を積んできた過程を経験すると、人の演奏にも敬意を感じ、熱心に聴くことができるようになった。これは演奏の時に限ったことではなく、授業中の態度など、一般的なマナー向上にも繋がっている。音楽の授業では、初めと終わりの挨拶を徹底している。グレード試験の時も演奏前と演奏後の挨拶を徹底し、試験の時にはスーツを着用することになっている。それは実習や就職試験の時に役立つようにという思いからであったが、オンオフのけじめが付き、学生の言葉遣いも以前よりも綺麗になってきたと感じる。

2013年度で感じたことは、授業についていくのが難しい学生に焦点が当たりすぎており、もっと伸びるはずの学生に、十分な目が向けられていなかったことである。その一例がピアノの初心者クラスという集団授業であった。2014年度から実施した改革は、これとは反対の視点から行った。授業についていくのが難しい学生をサポートし指導するのは勿論であるが、教員が関わりすぎて指導するのではなく、そのような学生が自主的に学ぼうとするのを援助する体制を考えた。そして、地道に努力し、向上心のある学生を評価し、そういう学生を見ることによって、学習が難しい学生の意識が変わり、学生全体の技術が高まることを期待した。技術が高い学生、技術が低い学生、どちらかに視点が偏ることなく、どちらの学生も共に高めあいがながらレベルが上がるのを援助するのが健全な指導と考えている。

今後の課題としては、まだまだ多くの改善すべきことがある。ピアノグレード制はピアノに重点が置かれ、歌はまだオプション的である。弾き歌い、歌唱力をもっとつけさせる必要がある。また、

保育現場で不可欠な即興的な演奏、律動のピアノなども授業で取り上げているが十分ではない。就職試験にしばしば課題として取り上げられる初見演奏も、力が付くようにさらに指導法を考えなくてはならない。2017年度から実施した新ピアノグレードは、また様子を見ながら改善する必要がある。

謝辞

現在までの改革を実行するにあたり、音楽教育検討委員会の諸先生方には、改革のご賛同を頂き、書類作成や学生指導など多岐に亘りご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。

<脚注>

- *1) 器楽 A、器楽 B、音楽教育 C、音楽教育 D
- *2) 音楽教育 A、音楽教育 B

<参考資料>

1. 神戸女子大学ピアノグレード一覧表
2. 兵庫大学短期大学部 2012年度保育科学生コンサート DVD